

2) 農業薬剤費

(1) 発生予察(圃場の観察)の実施並びに発生予察情報等の活用

- 1) 圃場の観察を徹底して病害虫の発生状況を的確に把握し、農薬を効率的・効果的に使用する。
- 2) 病害虫防除所が発表する予察情報、現地におけるフェロモントラップ調査(ハスモンヨトウ、オオタバコガ、チャノコカクモンハマキ、チャノホソガ等)に基づき、適期防除に努める。
また、灰色かび病、うどんこ病、アブラムシ類、ハダニ類、アザミウマ類、ウンカ類等の薬剤感受性の低下が問題となる病害虫については、薬剤抵抗性検定や耐性菌検定結果の情報等を参考にし、有効薬剤を選定する。
なお、各種情報については、病害虫防除所、各振興局、農協、農薬販売店等で入手する。上記の最新情報は、病害虫防除所のホームページで随時更新、公開している。

ホームページアドレス <http://www.ippn.ne.jp/nagasaki/>



〈発生予察情報の種類〉

- ①予報 発表時期:毎月15日頃(定期的)
主な品目:水稲、大豆、麦、ばれいしよ、きゅうり、トマト、いちご、たまねぎ、ブロッコリー、アスパラガス、かんきつ、びわ、なし、ぶどう、茶
病害虫名:イネいもち病・ウンカ類・コブノメイガ、ジャガイモ疫病、アブラムシ類、タマネギべと病、キュウリうどんこ病、灰色かび病、トマトコナジラミ類、イチゴ炭疽病、ハダニ類、カンキツ黒点病・ハダニ類、果樹カメムシ類、チャ炭疽病・チャノコカクモンハマキ等
- ②警報 重要な病害虫が大発生することが予想され、かつ早急に防除の必要がある場合に発表。
- ③注意報 警報を発表するほどではないが、重要な病害虫が多発することが予想され、かつ早めに防除の必要がある場合に発表。
- ④防除情報 注意報を出すほどではないが、今後の状況によって多発の恐れがある場合に発表。
- ⑤特殊報 県内で未確認の病害虫が発見された場合に発表。
- ⑥技術情報 イネ縞葉枯病、果樹カメムシ類の発生状況等、注目すべき病害虫の状況と生態、防除法等の技術情報を提供。

上記②～⑥の情報については、必要に応じて臨機に発表される。

(2) 病害虫を発生・まん延させない環境づくり

- 1) 圃場の衛生管理
 - ① 種子更新の徹底
 - ② 発病枝葉、株、果実の早期除去
 - ③ 病害虫に汚染した土壌の健全圃場への流入防止、耕耘機・コンテナ・くつ等による汚染土壌の持ち込み防止
 - ④ ヨトウムシ等の捕殺
 - ⑤ 太陽熱土壌消毒、施設栽培終了後の蒸し込み
 - ⑥ 圃場周辺の除草の徹底
- 2) 抵抗性品種・台木の導入
- 3) 健全な親株、苗(木)、穂木等の導入
- 4) 病害虫の発生が少ない作型の導入
- 5) 輪作や湛水処理による連作障害の回避
- 6) 適正な肥培管理
- 7) 風通しや水はけをよくする
- 8) 物理的防除の活用(防虫ネット、近紫外線カットフィルム、黄色灯、太陽熱消毒など)

(3) 大型規格農薬等の選択

大型規格農薬、水稲用省力除草剤、マンゼブ剤やアセフェート剤等のジェネリック農薬を選択する。

(4) 計画的な農薬購入推進

年間の防除計画を立て、基幹防除薬剤を主体に可能な範囲で予約購入し価格低減を図る。